

2021年11月2日
 南海電気鉄道株式会社

**【なんば駅周辺における空間再編推進事業】2021年11月23日(火)～12月2日(木)
 道路空間再編(歩行者空間拡大)の社会実験を実施**

官民合同で2017年3月にとりまとめた「なんば駅周辺道路空間の再編に係る基本計画」に基づき、“車中心の空間から人中心の空間”の実現に向け、ミナミエリアの玄関口であるなんば駅前の道路空間の再編に向けた検討を官民連携で進めています。

この度、南海電気鉄道株式会社(社長:遠北光彦、以下「南海電鉄」)が参画している、町会・商店街・企業27団体で構成する「なんば安全安心にぎわいのまちづくり協議会(2011年設立、以下「協議会」)」では、大阪市とともに2021年11月23日(火)～12月2日(木)にかけて、なんば駅前広場及びその周辺におきまして、道路空間再編(歩行者空間拡大)の社会実験を実施します。

具体的には、大阪市が「交通荷捌きの運用や安全性の検証」(※1)を実施し、協議会から委任を受けた「なんば広場マネジメント法人設立準備委員会(※2)」が「歩行者空間の利活用に関する検証」を実施します。

※1 南海電鉄は、交通荷捌きの運用や安全性の検証における設計、施工及び事務局業務を行っています。

※2 将来的な同広場のマネジメントを担う法人の設立に向けた準備のため設立された、南海電鉄をはじめとする4者で構成される委員会で、南海電鉄は代表会社を務めています。

社会実験の詳細は、別紙の通りです。
 なお、本日、大阪市も本件に関する報道発表を行っています。



別紙 道路空間再編(歩行者空間拡大)の社会実験の実施について

1. 概要

(1)実施内容

- ①交通荷捌きの運用や安全性の検証
- ②歩行者空間の利活用に関する検証

(2)実施期間

2021年11月23日(火)～12月2日(木)

(3)実施場所

- ①交通荷捌きの運用や安全性の検証
なんば駅前広場及び周辺道路
- ②歩行者空間の利活用に関する検証
なんば駅前広場



2. 交通荷捌きの運用や安全性の検証について

車両交通および荷捌きへの影響や安全性の検証を目的に、御堂筋からなんさん南北通りへの流入部の交通導線を一時的に遮断し、なんさん通りには蔵前通り(難波中2交差点)から通行可能な車両を限定して進入させるようにするなど、歩行者のための空間再編に向けた社会実験を実施します。

交通規制等の詳細については、大阪市の報道発表をご確認ください。

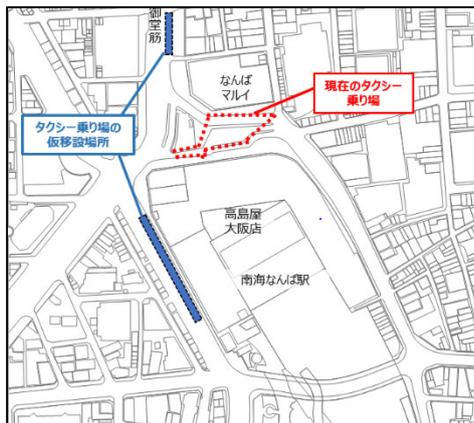
URL: <https://www.city.osaka.lg.jp/hodoshiryo/kensetsu/0000546163.html>

※本社会実験実施にあたり、なんば駅前のタクシー乗り場及びバス乗降場の仮移設を行います。

【タクシー乗り場の仮移設】

実施期間: 11月1日午前6時～12月3日午前6時

移設先: 以下参照



【バス乗降場の仮移設】

実施期間: 社会実験実施期間(11月23日～12月2日)

移設先: 以下参照



3. 歩行者空間の利活用に関する検証

交通荷捌きの運用や安全性の検証の社会実験によって広がった道路空間において、日常の憩いの空間のあり方を検証します。

(1)実施内容

- ・歩行者空間の利活用に関する検証の実施区間内において、歩行者通行動線と滞在空間を分け、滞在空間にはテントやベンチなどを設置するほか、夜間は LED 照明で周囲を照らすなどして、憩い空間としてのあり方を検証します。
- ・滞在空間内の植栽を撤去することで、なんば駅前広場の将来形に近い形での一体感、なんさん通りの歩行者空間に向けた連続性の創出を図ります。



実施イメージ(日によって設置場所は異なります)

※新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から集客型のイベントなどは実施しません。

(2)実施期間および時間

2021年11月23日(火)～12月1日(水) 8時～20時 (初日のみ11時～20時)

※12月2日(木)は、設備撤去を行うため除く。

(3)協賛企業

歩行者空間の利活用の検証は、以下の企業(順不同)からの協賛を受けて実施します。

- ・株式会社コトブキ(物品協賛) ・西尾レントオール株式会社(物品協賛) ・太陽工業株式会社(物品協賛)

4. 社会実験に関するお問い合わせ先

2021 社会実験事務局(南海電鉄 グレーターなんば創造部) TEL:06-6644-7233

【参考①】なんば駅前広場で目指す姿(出典:なんば駅周辺道路空間の再編に係る基本計画(2017))

基本方針 大阪のおもてなし玄関口～世界を引きつける観光拠点づくり～

- ①人中心の空間に再編し、世界的繁華街ミナミの新たなシンボル空間を生み出す
- ②ミナミ・大阪・関西を回遊する拠点として、地域と連携し情報を届ける
- ③人のまちミナミの中心として、居心地よく安心感のある空間を創造する



【現在のなんば駅前】



【将来イメージ】

【参考②】官民連携によるこれまでの取組み

(1) 設立の経緯

大阪ミナミの中心に位置する南海電鉄なんば駅前は、多くの国内外の来街者が行き来する場所であるが、駅前広場空間の大半を車両が占め、東側のなんさん通りは歩道が狭く放置自転車が多い、などの現状を改善できないかと、2008年に地元発意でなんば駅周辺における空間再編の検討を開始した。2011年には、なんば駅周辺の町会、商店街、企業27団体が参加した「なんば安全安心にぎわいのまちづくり協議会」が設立され、まちづくり構想を策定した。

(2) なんばひろば改造計画社会実験(2016年11月11日～13日)

なんば安全安心にぎわいのまちづくり協議会や行政、大阪商工会議所の主催で、将来の歩行者広場化を想定した空間活用社会実験を実施した。延べ8.7万人が来場し、アンケートでは約9割の方が歩行者広場化を「とてもよい」「よい」と評価。なんば駅前の空間活用に大きな可能性があることを官民で共有し、歩行者広場化の機運が上昇した。



(3) 「なんば駅周辺道路空間の再編に係る基本計画」(2017年3月)

社会実験を経て、なんば駅前の歩行者広場化を実現するための指針となる「なんば駅周辺道路空間の再編に係る基本計画」を策定した。(基本計画 URL <http://www.namba-hiroba.jp/pdf/kihonkeikaku.pdf>)

【参考③ 産学連携の取組み】

今般の社会実験において、株式会社 HULIX(大阪大学発のスタートアップ企業)および大阪大学の協力の下、赤外線センサーを現地に設置することによって、なんば駅前広場における人流計測調査を産学連携で実施します。

以上